

伝えよう、三計と半九の教え

# そっけん 息軒だより

一日の計は朝(あした)にあり  
一年の計は春にあり  
一生の計は少壮の時にあり



令和2年度 8・9月号 (第21号)

発行 宮崎市安井息軒記念館  
管理 NPO 法人 安井息軒顕彰会  
理事長 齋藤義輝  
館長 川口眞弘  
〒889 - 1605  
宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378-1  
Tel:0985-84-0234 Fax:0985-84-2634  
e-mail:sokken.yasui@pic.bbq.jp

QRコードを読み取ると、記念館のHPがご覧になれます。

## ★息軒関連史料寄贈相次ぐ★

### ～飢肥藩清武郷の旧家高橋家より系図や書簡等寄贈～

高橋家は飢肥藩清武郷の名家・旧家の一つです。安井息軒との関連において高橋家では有名な人物と言えば高橋元吉(藤蔵)です。当時息軒は、江戸帰りの気鋭の学者で、飢肥藩清武の郷校「明教堂」の助教でした。

文政12年(1829)10月、息軒は、愛弟子7名を伴って漢詩や短歌・俳句の修行のため双石山に2泊3日の旅をします。この時の弟子の中に、後に飢肥藩最後の家老になる平部嶠南、息軒が飢肥・江戸に発った後、明教堂を支えることになる阿萬豊蔵そして高橋藤蔵がいました。高橋藤蔵は元々は阿萬家の出身で阿萬豊蔵の兄にあたりますが、高橋家に養子に行きます。高橋家の祖先、元武は曾井の地頭や折生迫の奉行を務めましたし、藤蔵は江戸留守役や飢肥藩の要職、用人格を務めたりするなど出世し、清武や飢肥の発展に尽くします。藤蔵の孫にあたる元善は北清武村の村長を務めたような名家です。(ちなみにこの時の南清武村の村長は息軒の親戚にあたる安井徹でした。)今回の寄贈品は、兵法等の指南書や免許状、布告文、書簡、高橋家の系図等々です。

### ～遠山家からは伝安井息軒書条幅寄贈～

5月の下旬、宮崎市太田町の旧家のご子孫にあたる遠山様が書軸を持って来館されました。お話を伺うと、遠山家に代々伝わり床の間に飾ってあったものだとのこと。

息軒がよく使用した号「半九陳人衡」と息軒の落款がある四行にわたる見事な書です。江戸時代、赤江や恒久、中村あたりは飢肥藩の商家街でしたので、息軒との間に何らかの交流があった可能性は十分あります。宮崎大学教育学部の山元宣宏准教授に試読していただいたところでは、三国志の昔に想いを馳せた内容とのこと。

共に宮崎市への寄贈ですが、当館で大切に保管させていただき、活用を図ってまいりたいと思います。高橋様、遠山様、誠にありがとうございました。紙面をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。

(文責：川口)



## ★好評開催中★

### 「北有馬太郎 ～伝馬町の牢に散った志～」

会期：11月3日(火・祝)まで  
時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)  
会場：宮崎市安井息軒記念館 特別展示室  
入場料：無料



息軒がその才と人間性をこよなく愛した義理の息子・太郎。学問と尊王攘夷活動の狭間で葛藤しながら、尊王の志士として散った35年の生涯を紹介します。

## 【お詫び】

息軒だより第20号(6・7月号)において「西郷隆盛から安井息軒に宛てた書簡みつかると、さらに隆盛は息軒主宰の文会にも参加していた」とお知らせしましたが、よくよく調べてみますと間違いでした。精査と検証が不足していましたことを心よりお詫び申し上げます。

### 息軒と隆盛 交錯する運命の糸

当館では平成28年度、企画展「安井息軒と西郷隆盛」を実施し、両者の関係性に迫りました。息軒側の資料からは隆盛の名前は見出せませんでした。しかし『西郷隆盛全集』の中の『審察』の中で数ある著名人や知人の中に息軒の名前を見出すことができました。そして今年コロナの渦中であって、隆盛の研究家からある情報が入ってきました、国立国会図書館のデジタルコレクション、『南洲翁逸話』の中に息軒の名前が何度も出てくることでした。早速調べてみますと、この書の主語は全て「翁」となっていました。そして確かに「翁が安井息軒に与フル書」等々息軒の名前が何度も散見されます。これは素晴らしいと思って先月号でお知らせしたところでした。しかしながらこの書の表紙には印影が不鮮明ではっきりしませんが、附録として「藤田東湖言行一斑」と記されていました。

内容を再度精査してみますと、この書の主人公は一貫して「翁」なので、当然主語は西郷隆盛のことかと考えていました。しかし書の中で使用されている「翁」という言葉は、附録の部分で東湖とすり替わっていたのです。東湖と息軒は共に心酔し合う学者仲間だったので、その交流の証が確認できるのは当然のことです。

### キーパーソン 東湖と息軒

息軒と東湖の出会いの場は、天保11年(1840)、共通の師である松崎謙堂の屋敷でした。最初息軒は東湖を見かけて、若くて声が大きく乱暴な印象をもちました。しかし言葉を交わした二人が互いの素晴らしさに気づくのに時間は要しませんでした。二人はすぐに打ち解け、敬愛し合いました。東湖は水戸藩主の徳川斉昭にとって懐刀的存在でした。東湖は息軒の素晴らしさを斉昭に伝え、斉昭は今後の政治の在り方を息軒に問い、息軒はそれに見事に応え、斉昭から直筆の書と葵の紋の入った着物を拝領しました。

### 東湖と隆盛

二人の出会いは嘉永7年(1854)4月10日、西郷が庭方役に抜擢されてから数日後、小石川の水戸藩邸でのことでした。二人は誰が見ても豪傑と思われる風貌で、似ていました。

一目東湖を見た隆盛は、東湖の凄さと学識に惚れ込み、東湖から認めてもらったことで有頂天になり、伯父に手紙を書くほどでした。

しかし、隆盛と東湖の別れはあまりにも早く訪れました。翌年10月に発生した安政の大震災で、東湖は年老いた母を助けようと自宅に引き返した際、落下してきた太い梁で圧死してしまったのです。この報を受け、息軒も隆盛も途方にくれました。

### 息軒と隆盛の見えない糸、不思議な縁

- 1 慶応4年3月13日、江戸開城に向けて予備会談、翌日隆盛と勝海舟が会談し無血開城決定。同13日、息軒は領家村(現埼玉県川口市)に疎開しました。
- 2 9か月後息軒は彦根藩の求めに応じ、著書『左伝輯釈』の出版のため藩邸で世話になります。そこに勝海舟、山岡鉄舟が訪ねてきて、息軒に明治天皇の侍講(先生)を依頼しました。
- 3 明治6年、息軒の信頼する弟子、谷干城が熊本鎮台の司令官になります。明治9年8月、宮崎県は鹿児島県に編入されます。同年9月23日息軒は死去します。翌年西南戦争が勃発し、谷干城は隆盛と激戦を交えます。息軒の飢肥振徳堂の弟子であった小倉処平もこの戦いで戦死します。
- 4 戦争終結後、宮崎県再置のため息軒の明教堂における孫弟子、川越進が尽力し、息軒の三計塾の弟子たちも政府の中枢にあり支援をして、宮崎県の再置が成就します。

### 瓦全(がぜん)=甄全(せんぜん)と玉碎(ぎよくさい) ~対照的な生き方~

明治5年正月、息軒は「瓦全」の書を書きます。瓦全とは「なすことなく瓦のようにまっ平に生きる」という意味です。幕末から明治初期の混乱の中でたくさんの弟子たちが戦場の露と消え、自身の家族も次々と亡くなる中(自分だけが生き残ってよいのか…)複雑な思いで書かれた書です。しかし息軒は瓦全を貫き、太く長く生きることで幾多の偉業を達成します。

一方隆盛の漢詩も評価が高く、漢詩の一節に次の内容があり、隆盛は「瓦全(甄全:せんぜんも同義語)」とは対義語に当たる「玉碎(太く短く、玉のように砕け散る)を理想としていたことがうかがえます。

「丈夫玉碎恥甄全」(じょうふはぎよくさいすともせんぜんをはず)

意味:一人前の男たるもの、玉が砕けるように立派な最期であれば死をいとわず、むしろ瓦のようにつまらない人生を長く生きることが恥じるものである

生き方の上でも対照的な二人です。残念ながら今回も両者の具体的な関係は見いだせませんでした。今後も追究していきます。

(文責:川口)

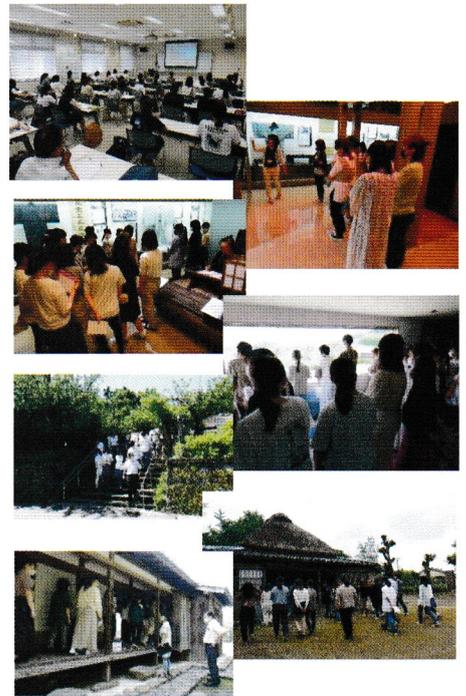
## ★宮崎学園短期大学 1 年生 来館★

6月18日から26日にかけて、宮崎学園短期大学保育科と現代ビジネス科の1年生7クラス計229名の学生さんたちが、人間の研究“勤労”の授業で郷土の先人たちを学習するために来館されました。

安井息軒については、“勤労”というより“勤勉”のイメージが強いですが、清武の明教堂、飢肥の振徳堂、江戸の三計塾とそれぞれの学校で人材育成に大きく貢献し、優秀な門下生を大勢輩出しました。

また、安井息軒は20代の江戸遊学で、塩谷右陰、木下犀譚、芳野金陵らの学友を得ています。学生の皆さんも今机を並べて勉強しているクラスメイトの中に、一生付き合っていく友人がいるかもしれませんね。

これからいろいろなことを学び、将来保育士や会社員として社会に出ていく学生の皆さんたち。研修を受ける真剣なまなざしが頼もしく見えました。ご来館ありがとうございました。



## ★夏休みの調べ学習で来館★



新型コロナウイルスの影響で、例年より来館者が少ない中、7月末からは、夏休みの宿題のために記念館を訪れる親子連れの来館者が目立つようになりました。

メモをとったりエントランスの息軒像と一緒に記念撮影をしたりと、熱心に館内を見て回っていただいています。学習の成果を安井息軒顕彰自由研究展示会や絵画展にもぜひご応募ください。

また、9月頃までは、旧宅や茶室前の庭園の緑が大変きれいです。旧宅奥にあるイチヨウの大木には銀杏ぎんなんが実っており、四季折々の自然も楽しめます。皆様のお越しをお待ちしております。

## 宮崎市・清武町合併 10 周年記念 安井息軒記念講演会

テーマ：「偉大なり 滄州、息軒そして朴堂先生～修身治人を視点として～」

講師：神川 孝志氏（旧清武町教育委員会教育長 旧きよだけ歴史館館長）

日時：9月22日（火・祝）10：30～12：15

開場 9：00

9：50～10：20 合併記念式典

会場：宮崎市清武文化会館 半九ホール 入場無料

お問合せ：宮崎市安井息軒記念館 TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634



## 息軒ふるさとウォーク

日時：10月10日（土）9：30～12：00（受付9：10～）

定員：30名 参加料：無料

申込方法：下記まで、住所・氏名・電話番号をお伝えください。締切りは10月3日（土）です。

申込み・お問合せ：宮崎市安井息軒記念館 TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634

✉ sokken.yasui@pic.bbiq.jp

飢肥藩の北の要衝地であった清武郷。今回は、中野周辺にある史跡を見学しながら歩きます。



### <日程変更のお知らせ>

臨時休館に伴い講座の日程が変更になりました。受講生の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

第3回町史セミナー 8/1（土）→ 8/29（土）

第2回記念館講座 8/8（土）→ 10/17（土）

### <新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください>

- ・来館時はマスクの着用をお願いいたします。
- ・正面玄関に消毒液を設置しております。手指の消毒をお願いいたします。
- ・入館時に「利用者名簿」へのご記入と検温にご協力ください。



## 令和 2 年度みやざき三計塾全 6 回終了

宮崎大学山元宣宏先生（漢文学）を講師に迎え、日本漢字能力検定協会共催「安井息軒著『論語集説』を読む」全 6 回の日程が終了しました。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、定員を 30 名に減らしての開催となりました。

『論語集説 卷一 学而第一』に従って読み、分かりやすく解説していただきました。受講者から「少ない文字数の中に含まれた背景やたった一つの文字にいくつもの意味がある等奥深く、知れば知るほど面白い。」「来年度も開講してほしい。」等の感想・要望がありました。



ソーシャルディスタンス、マスク着用、室内換気等に気を配りながらの開催でした。

## 息軒旧宅の清掃

7 月 25 日（土）、前日までの大雨も止み、曇り空の下、午前 8 時から約 2 時間、記念館職員、顕彰会会員計 9 名で、息軒旧宅の清掃をしました。新規に購入した草刈り機や鋸・剪定鋏等を使用して、旧宅内外の樹木や草をきれいにさせていただきました。

毎回参加してくださる福田会員（御年 76 歳）は、「息軒先生は大阪で苦学され、江戸で三計塾を開学、江戸幕府の儒者となった方です。先生が青年時代までを過ごしたこの家を掃除するたびに偉大さを感じます。」と語っておられました。

今後の旧宅清掃予定日は、9/12（土）、10/31（土）、12/12（土）、2/9（火）です。ご都合のよい方は、前日までに記念館までご連絡ください。どなたでも参加できます。



はつらつと作業される会員の皆さん

笑顔の福田会員

## まんが『郷土の偉人 安井息軒』の改訂印刷と一般販売開始について

このたび、まんが『郷土の偉人 安井息軒』を著作者の藤井龍二氏、行政等関係者の皆様のご協力により、当法人が 10 月中旬、改訂刊行することになりました。この書籍は 2007 年 3 月 29 日、当時の清武町・清武町教育委員会が初版刊行したものです。

今まで一般販売していませんでしたが、一人でも多くの方にまんがを読んでいただくことで、息軒先生の「高いところざし」と「偉業」の顕彰の一助になれば幸いです。ただ今予約受付中、1 冊 500 円（税込）。

お問い合わせは安井息軒記念館 TEL0985-84-0234 まで。



### 会員随時募集中

NPO 法人 安井息軒顕彰会では令和 2 年度の会員を募集しております。

#### 年会費

- 一般会員 2,000 円
- 賛助会員 1,000 円
- 学生会員 500 円
- 団体会員 5,000 円（1 口）



各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局までご連絡ください。

☆新型コロナウイルス感染防止のため、イベントを延期・中止することがあります。予めご了承下さい。

### NPO 法人 安井息軒顕彰会

事務局

〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1  
（宮崎市安井息軒記念館内）

電話：0985-71-3005 携帯：080-8589-0569

e-mail: yasuisokken@yahoo.co.jp

